



秋

2023

vol 164



秋の休日は吉井町で



秋の休日は吉井町で

山と川に抱かれたのどかな町で、秋の休日を



牛伏山をはじめとした山並みと錦川の
流れが美しい吉井町。

長靴の形に例えられる高崎市でいうと
ちょうどつま先の部分。日本三古碑上野
三碑の一つ多胡碑があり、江戸時代には
吉井藩がおかれるなど、高崎でも古の歴
史の深さを垣間見せる土地です。

猛暑が落ち着き、少し疲れた身体に
ぴったりのゆったりとした時間が持てる
はず。と今回は秋に訪れていただきたい
吉井エリアのおすすめのスポットをこ紹介
します。

上信越自動車道吉井ICが町内にあり、
車でのアクセスは便利ですが、時間が
許すのであれば、レトロな上信電鉄を
使って高崎駅0番線からスタートして
みませんか？

歴史を感じ、自然の豊かな恵を体験
できる、吉井町へお越しください。



烏川橋梁を走る蒸気機関車(大正13年頃)



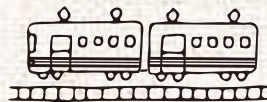
明治29年イギリスから輸入した1号蒸気機関車



鉄道ファンの要望で一部はサンドイッチ電車のデザインのまま運行中

乗

つてたずねる



上信電鉄で行く 車窓の眺めを楽しむ 秋の電車旅

吉井をたずねるなら、
そのスタートは上信電鉄で。

情緒たっぷりな電車が魅力の上信電鉄は、明治28年に設立された「上野鉄道」から始まり、120年以上の歴史を持つ東日本最古の鉄道です。明治時代、群馬県内の養蚕業が発展し、生糸の出荷量が増加したことから、地域住民の熱い想いに後押しされて敷設された絹の道でした。かつては烏川と鏑川の流れに沿って結ばれた高崎 - 下仁田駅間を蒸気機関車が走っていました。大正13年の電化後からは電車が走り、沿線の観光を盛り上げました。地域と共に前進してきた鉄道は、現在も沿線の通勤・通学者の交通手段として重宝されています。

田畑に実った黄金色の稲穂を掻き分け進む、上信電鉄のレトロな列車。愛らしい「ぐんまちゃん」や「下仁田ジオパーク」などのラッピング電車も多く走っています。中でもJR東日本で運行され「サンドイッチ電車」と親しまれた107系は、コーラルレッドの車体の側面に紫色のラインがひかれた「上信電鉄オリジナルカラー」として鉄道ファンに親しまれています。

吉井町には「馬庭(まにわ)」「吉井」「西吉井」の三駅があります。吉井団地の造成と共に開業した西吉井駅が最も新しく、近くに高校がある馬庭駅と共に、地域の人々の交通手段として利用されています。

三駅の中で一番古い吉井駅は、上野三碑の一つ「多胡碑」まで徒歩30分、車で5分の立地。電車で訪れる際には高崎駅で発売中の「上野三碑巡りフリー乗車券」もオススメです。グルメでは吉井駅近くの中華料理屋「陽気軒」が大人気。看板メニューの「ジャンボギョーザ」でお腹を満たして、食欲の秋も楽しみたい。



ジャンボギョーザ、一皿5個500円。
テイクアウトも可能
〔「陽気軒」吉井町塩川137-4〕



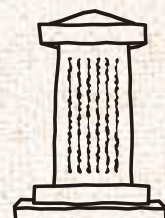
中華料理屋「陽気軒」が大人気。看板メニューの「ジャンボギョーザ」でお腹を満たして、食欲の秋も楽しみたい。

上信電鉄

●<https://www.joshin-dentetsu.co.jp>

碑

をたずねる



歴史を学び、想いを馳せる
多胡碑&記念館を訪れてみませんか？

吉井地域のシンボルとも言えるのが日本三古碑・上野三碑の一つ「多胡碑」です。多胡碑とそのガイダンス施設である「多胡碑記念館」は、吉井いしぶみの里公園内にあります。

多胡碑は碑身(ひしん)の上下に笠石(かさいし)と台石(だいし)がついた独特の形をしており、80字が牛伏砂岩(通称、多胡石)に彫られています。碑文からは和銅4年(711年)に多胡郡の建郡を記念して建てられた経緯や「羊」とい

う人物が建立したことなどを読み解くことができ、当時の律令国家の様子や地名の由来を知ることができます。2017年には「上野三碑」として「ユネスコ世界の記憶」へ登録され、碑の近くにある「多胡碑記念館」では碑の解説や古代多胡群の考古資料、関連出土品を展示中です。

豊かな自然と趣ある史跡の雰囲気を楽しみながら、私たちの祖先が残してくれた歴史に触れることができます。



多胡碑記念館

- 高崎市吉井町池1085 ● TEL: 027-387-4928 ● 開館時間: 9:30~17:00
- 休館日: 月曜(祝日・振替休日の場合はその翌日)、年末年始
- 観覧料: 一般200円、大学生100円、高校生以下・65歳以上無料
※令和6年3月31日まで観覧無料
- アクセス: 上信電鉄吉井駅から車で約5分、徒歩30分。吉井ICより車で約7分
- <https://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2013121900164/>



湯

をたずねる

牛伏山のふもと、
自然豊かないいお湯あります



湯端温泉

- 高崎市吉井町多比良3309番地1 ● TEL:027-384-8602
- 定休日:火曜 ● 営業時間:11:00~16:00
- 日帰り温泉料金:750円(大人)、450円(3歳~小学生)
- 宿泊:4650円~(大人)、3255円~(小人)
※宿泊、日帰り温泉とも完全予約制
- アクセス:上信電鉄吉井駅から車で約8分、
吉井ICより車で約5分
- <https://yubataonsen.wixsite.com/yubataonsentop>

吉井町の紅葉スポットの一つ、牛伏山。そのふもとに、宿泊・日帰り温泉施設「湯端温泉」があります。

お湯を守るのは桑子済さん。昭和46年、桑子さんの祖父が温泉旅館として開業。旅館は一時休業していましたが、「温泉を継いでほしい」という祖父の遺志を受け、桑子さん一家は吉井へUターン。平成24年に温泉を再開させました。

お湯は、自然流出の天然温泉で、旅館開業前の昔から長らく地元民に愛されていた温泉だそう。泉質は、弱アルカリ性のナトリウム―塩化物冷鉱泉。肌触りは少しとろっとして、ほのかに硫黄の香りが漂います。「うちの泉質は肌によいようで、まるで化粧水のようなお湯です」と桑子さん。皮膚のトラブルが緩和され、入浴後はつるんとした肌になります。



温泉は、源泉が常に流れている「湯端の湯」とウッドデッキ付きで大人4名ほどが入れる「ホタルの湯」の2つ。プライベートな時間を楽しんでもらうために貸切スタイルとなっています。

温泉の裏手には山と沿うように川が流れ、夏には蛍がちらほらと姿を見せるそう。喧騒から離れ、あるのは山の景色と温泉。シンブルが清々しい、のんびりと過ごせる温泉です。



をたずねる



山の恵をお土産に。
生産者の温もりが伝わる新鮮野菜や加工品。



吉井町のお土産にはぜひ地元で収穫された野菜や手作りの加工品を。新鮮でかつ直売所ならではの価格で購入できます。ふれあいの里所長の江原史高さんにお話を伺いました。

Q ふれあいの里について教えてください。

平成8年11月にオープンしました。地域の野菜生産者が中学校の校庭で朝市をはじめ、それが発展して現在のかたちとなりました。当時は物産施設の先駆的な存在で、全国から多くの方が視察や見学にも訪れました。販売しているのは、旬の野菜、花卉、お米、蜂蜜など、加工品とお寿司などのお弁当や惣菜などです。郷土料理の焼きまんじゅうもありますよ。現在、出荷している生産者の方は地元、吉井町の方を中心に200名ほどです。吉井町のお土産でしたらぜひこちらで買い求めください。

Q 秋のおすすめはなんでしょう？

秋の味覚として、柿、栗、ぶどう、なしがおすすです。品種などを変えながら、出荷が続きます。加工品としては、お餅やおやきですね。今では珍しい手作り、商品には生産者の名前がシールで貼られていますので、「この人のお餅」といったふうに名前で購入する方もいます。

Q 色々手に入れたいならやはり午前中がおすすでしょうか。

そうですね、開店を待ってきてくれる方もいます。10月よりオープンが9時45分になります。オープンから午前中までは多くの商品がありおすすですね。

Q ふれあいの里のPRをお願いします。

吉井町は、山に囲まれた地域です。そのため、山の恵が1番の強みです。秋ですと柿や栗。春だとたけのこや山菜といったふうに山で取れるものが豊かです。ぜひ味わっていただきたいですね。ふれあいの里には、吉井の特産品が並んでいます。ぜひみなさんお越しください。



吉井物産センター ふれあいの里

- 高崎市吉井町池1944-4 ● TEL:027-388-3600
- 営業時間:9:45~17:00 ● 定休日:年末年始に臨時休業
- アクセス: 上信電鉄吉井駅から車で約10分、吉井ICより車で約11分



【主なサービス内容】

- 市政情報・イベント情報・緊急情報などの配信
- SOS事業、子育て、ごみの分別など、暮らしの便利情報の検索
- 避難所やハザードマップなどの防災情報の検索



■ 高崎市のLINE公式アカウントがスタート

9月1日から、高崎市のLINE公式アカウントを開始しました。イベント・講座や子育てなどの情報から防災などの緊急情報まで、さまざまな情報を素早くお届けします。受信するには、登録後、欲しいカテゴリーの受信設定を行ってください。ぜひ、友だち追加をお願いします。



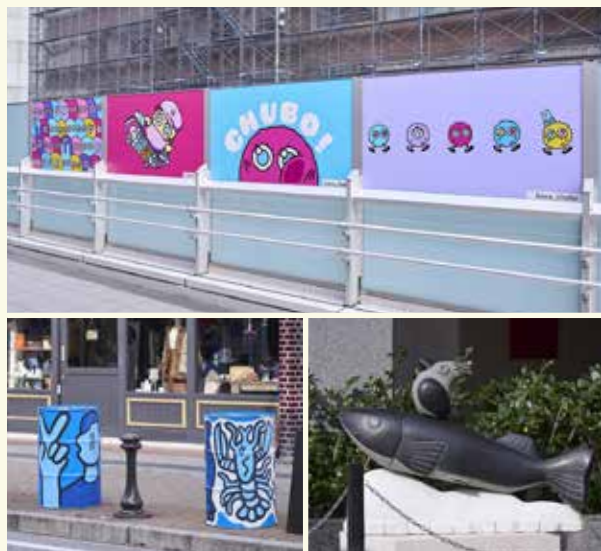
●お問い合わせ 高崎市広報課 027-321-1205

■ アートプロジェクト高崎

10月28日(土)～11月26日(日)

高崎アートインキュベーション推進会議は、現代アートイベント「アートプロジェクト高崎」を開催します。今年で9回目となるイベント。国際的に活躍するアーティストから新進気鋭の若手作家までおよそ30人が、高崎に集結します。今回のテーマは「響き合う「空間」のダイナミズム」。中心市街地の広場や建物の壁面などに、絵画や立体などの作品を制作・展示します。日常にアートが溶け込んだ、普段と違うまちなかをぜひお楽しみください。

●お問い合わせ
アートインキュベーション推進会議
TEL.027-322-9195



※画像は2022年の作品



■ 高崎光のページェント2023

2023年10月27日(金)～2024年2月29日(木)
*点灯時間:17時～22時(金・土・日曜は24時まで)

高崎の冬を美しく彩る「高崎光のページェント」。高崎駅西口から高崎市役所に至るシンフォニーロードでは街路樹が光で溢れ、高崎城址公演のお堀エリアは水面に映るイルミネーションが美しく幻想的です。最大の見どころは、写真スポットとして人気の高さ約6mのフラワーツリー。今年も高崎駅西口のペDESTリアンデッキに登場します。街中を周遊しながら、光あふれる高崎の冬を大切な人とお楽しみください。

●お問い合わせ
高崎光のページェント実行委員会事務局
TEL.027-330-5333(一般社団法人 高崎観光協会内)



コーヒーのお供は厳選されたお菓子。ドライデーツ、イチジクなど(180円)

たかさき純喫茶探訪



CAFE LIBERO カフェリベロ

menu	
・ コーヒー	550円
・ 紅茶	600円
・ アイスクリーム	400円
・ コーヒー豆(100g)	780円～

この町の日常にこだわり抜いたコーヒーを

今回ご紹介するのは、コーヒー豆の販売を中心とする喫茶店 CAFE LIBEROです。お店のある矢中町は、高崎駅から車で東に約15分。団地が立ち並び、ノスタルジックでのんびりとした雰囲気広がる住宅街です。

ネービーブルーの暖簾が目印の店舗で、私たちを迎えてくれるのは店主の関根宏彦さん。自身が50歳になるのを機に、「ずっと好きだったコーヒーを紹介して人が集まれる場所を作りたい」と、20年以上キャリアを積んだ展示プランナーの仕事を退職し、コーヒーの道へ。東京の名店カフェ・パツハで5年間、豆、焙煎、抽出、カップの選び方、店舗の経営などあらゆることを学び、地元高崎で2018年にお店をオープンしました。

「この町の日常にこだわり抜いたコーヒーを」がお店のモットー。

関根さんのこだわりは、良質な生豆を手入れることから始まります。生豆は丁寧に選別し、その後それぞれの豆の特性にあった焙煎に。焙煎後に再度ハンドピックで味に影響を与える豆を取り除きます。そしていつもの味に煎り止められているかをカップテストで確認をして店舗へ。「コーヒー豆は生鮮食品」と、鮮度も大切にしてい

置きはせず開店前に焙煎をしていそうです。

お店では豆の販売と豆の味を最大限に味わえるドリップコーヒーやソフトドリンクなどを提供しています。喫茶スペースのおすすめはカウスター席。パツハ独自の手法で丁寧に落とされる様子を香りとともに楽しむことができます。

豆は常時10種類程度が並び、ホットコーヒーが美味しく感じられること。関根さんの手がけるコーヒーは、雑味がなく澄んでいて、深みがありながらも、飲んだ後はさっぱりとしています。そのストイックとも言える一杯をぜひ。



コーヒー豆は予約もでき、連絡した翌日午後には新鮮な豆を購入することができる



大のサッカー好きという店主。店名はサッカーのポジション名から。



【CAFE LIBERO (カフェリベロ)】

- 高崎市矢中町311-11
- 営業時間: 10:00-18:00
- 定休日: 水曜
- TEL: 027-387-0166
- <https://cafelibero.jp>



高崎観光協会 会報 秋号 Vol.164 令和5年10月1日発行

発行 一般社団法人 高崎観光協会
高崎市八島町222(高崎モントレー2階) Tel.027-330-5333

<http://www.takasaki-kankoukyukai.or.jp>

制作 株式会社 SDI総研

AUTUMN
2023

